

菊東学舎だより

令和5年7月号

15才の出口

-もっと課題を解決したいと考え、自ら行動する菊東学舎の子- (菊東中、六郷小、河城小)

第1回菊東学舎運営協議会を開催しました！

第1回菊東学舎運営協議会を『きくる』で開催しました。地域の特色を生かした学舎の取組や児童生徒のより良い成長を育むために自治会やコミュ協の代表者等と、学舎内の校長で話し合いをしました。

学舎コーディネーターからは菊川市で令和6年度から始まるコミュニティ・スクールについて、菊東中の校長からは令和5年度菊東学舎の取組を説明しました。

その後、「あいさつができる子にするためにどんな取組をしたらよいか」「地域の子どもに期待すること」について話し合いました。出された主な意見は以下のとおりです。



【あいさつができる子にするために】

- スポ少をやっている子は元気よくあいさつをしている。子どもたちにあいさつを教えられるようになる。
- あいさつはコミュニケーションの一つである。あいさつをすると自分のためになり、あいさつはその人と仲良くなるための一歩でもある。
- 中学生は「おはようございます」だけでなく、「大変です」「ありがとうございます」などの一言を添えてあいさつする子が多い。部活の顧問の指導も大きい。
- 大人があいさつを教えたり手本を示したりしていくことが大切である。
- あいさつができた時に褒め、あいさつをすると気持ちがいいと伝えたい。
- 菊東学舎内で小中学生のあいさつ交流ができるといいと思う。

【地域の子どもの期待すること】

- コロナ禍で物事を楽観的に流していく子どもが増えているように感じる。
- 成し遂げられない子どもが増えているので、多くの経験をさせたい。
- コロナの影響で、人との距離感ができたり関わりがなくなったりした。今後は、コミュニケーションが図れるイベント等を期待する。
- 何をしたらいいのかを子ども自身がわかっていない。子どもに期待するのではなく、子どもの期待を探り、大人が応えるようにしたい。
- 学校外での実体験をさせたい。けが等が心配ではあるが、思い切りできるようにさせたい。

【学びの庭】 菊川市あいさつプロジェクト 2023

菊川市内の小中高生が協力して、市民に明るく、元気なあいさつを届ける『菊川市あいさつプロジェクト 2023』が12日から3日間、市役所前や各小中学校の校門付近で行われました。この運動は、菊川市が進める小中一貫教育『学びの庭』構想の一環として実施され、小中高生の交流は初めての取組です。菊東中と六郷小には小笠高校の生徒が、河城小には菊東中の生徒がのぼり旗をもって校門付近に立ち、登校してくる児童や生徒、校門付近を通る地域の方に気持ちの良いあいさつを投げかけました。



菊東中



六郷小



河城小

令和6年度から コミュニティ・スクールがスタートします！

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校をいいます。コミュニティ・スクールの理念は、『地域とともにある学校』『学校を核とした地域づくり』です。学校・家庭・地域が目標を共有し、一体となって地域の子どもたちを育てていきます。このことは、子どもたちの豊かな学びとともに、そこに関わる大人たちの成長や充足感を促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながります。菊川市では、学校と地域の人々がみんなよく考え話し合う、同じ目標に向かって一緒になって活動していくことを大切にしています。

令和5年度にコミュニティ・スクールの導入準備をし、令和6年度から岳洋学舎、菊西学舎、菊東学舎の3学舎で同時にスタートさせます。

